

平成24年度 事業報告

自 平成24年 4月 1日
至 平成25年 3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

東京都三鷹市新川5 - 14 - 16

公益目的事業の実施状況

1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

(1) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

平成 24 年度は財団の新社屋建設工事により閲覧・貸出しなどの対外的な図書館業務はすべて休止した（休館期間：平成 24 年 5 月 1 日から平成 25 年 9 月末まで）。蔵書収集も新規購入は行わず寄贈図書だけを受入れた。工事期間中、蔵書の大部分は外部に預けることにし、貴重書や一部の未登録図書のみ既存施設内で保管した。なお、蔵書外部保管時に行った整理作業の過程で不要となった図書は、「古本市」（平成 24 年 6 月開催）にて来館者に無償で提供した。

(2) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

文化講座「第 22 回アジア・アフリカを知る集い」を次の通り開催した。なお、この回の講座は、(社)中日文化研究所との共催で実施した。

講座題目：『北京の伝統娯楽と伝統の復興』

講演者：岩崎菜子（いわさき・なこ 立命館大学、龍谷大学等の非常勤講師）

開催日：平成 24 年 9 月 8 日

開催場所：三鷹ネットワーク大学

(3) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人や個人からの依頼を受けて年間 22 件の翻訳案件を処理した。なお、翻訳者登録数は、年度末現在 125 名。

(4) その他（三鷹市立図書館との協働事業関連）

新社屋での当図書館業務再開に向けた準備と、新社屋に開館する三鷹市立南部図書館（仮称）（以下、南部図書館という。）との協働事業に向けた具体的な準備を開始した。おもな準備内容は以下の通り。

当図書館の新施設における図書配架に関する検討

リニューアルオープン時の企画展示や文化講座の検討

南部図書館が行う郭沫若関連の企画展示に向けた準備と立案に対する協力

- ・ 郭沫若の研究者である斉藤孝治氏（(社)中日文化研究所所長）を三鷹市立図書館関係者に紹介。また、過去に何度か郭沫若関連の企画展示を開催している千葉県市川市の関係者を三鷹市立図書館関係者に紹介した。
- ・ 三鷹市より企画展示に関する調査研究業務を受託。先の斉藤氏を囲んだ研究会の実施や、郭沫若自筆の書の内容に関する調査などを行った。

なお、南部図書館の開館日が平成 25 年 11 月 23 日（予定）となったことから、当図書館のリニューアルオープン日も同日とすることにした。

2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

(1) 日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

ア 学校教育法第 124 条に基づく専修学校専門課程の教育

日本語学科は、平成 23 年 10 月入学「進学 1.5 年コース（47 期）」（入学者数 15 名）同 24 年 4 月入学「進学 1 年コース（48 期）」（入学者数 19 名）同 24 年 10 月入学「進学 1.5 年コース（49 期）」（入学者数 21 名）を実施した。平成 24 年度の卒業生数は 16 名。進学実績は、大学院 1 名、大学 7 名、専門学校 10 名。なお、アジア系語学科は、新規入学者はなく、休科状態であった。

イ 専修学校の附帯教育及び別科

(ア) 個人を対象とした教育

一般社会人向けの教育、いわゆる生涯教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座や短期の語学講座等を実施した。また、初心者を対象にした語学の体験講座を企画し、三鷹ネットワーク大学の文化・教養講座の一つとして開講した。開講言語や受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》 受講人数は延人数
初 級：インドネシア語、アラビア語、タイ語 計 25 名（うち初級修了生 6 名）
中・上級：中国語、アラビア語、インド語、韓国語、タイ語 計 77 名

《特別講座》 受講人数は延人数
アラビア語会話、アラビア語講読、アラビア語語彙、アラビア語文法復習、
中国語中級、韓国語入門、韓国語夜間講座 計 90 名

《プライベートレッスン》 受講人数は延人数
ヒンディー語、スワヒリ語、ウルドゥー語等 計 14 名

《三鷹ネットワーク大学における語学の体験講座》
スワヒリ語他 全 4 言語（平成 24 年 4 月）

(イ) 法人・自治体・国の機関を対象とした教育

官公庁からの派遣語学研修生を対象としたクラスを中心にアジア・アフリカ語の語学研修を下記の通り行った。また、自治体が行う職員採用試験（中国語）の作成業務等を受託し、筆記試験の作成・採点、面接試験での試験官を派遣した。

《語学研修》
インドネシア語、タイ語、アラビア語、ウルドゥー語 各 1 件
日本語 7 件、英語 5 件 以上 16 件を実施

ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

例年、夏休み期間を利用して三鷹市内在住の外国人子弟を対象に「日本語教育支援プログラム」を実施していたが、平成 24 年度は新社屋建設工事に伴う事務所移転作業や既存施設の解体工事が小・中学校等の夏休み期間と重なったため、同プログラムの実施を見送った。

(2) 学生寄宿舍の運営

アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の学生寮として、当法人所有施設「有朋館」(ゆうほうかん、全20室・入居可能人数23人)と「青雲公寓」(せいうんこうぐう、全4室・入居可能人数8人)を使用し、運営した。平成24年度の年間稼働率は、有朋館が約86%(別用途で使用した2室は含まず)、青雲公寓が約92%だった。このほか、短期留学生用の宿舎として民間賃貸物件も短期間利用した。

(3) その他

ア 市内の小学生や高校生との交流活動

近隣の市立小学校が行う国際交流を体験する授業に日本語学科留学生が招かれた。互いの国の紹介やゲームなどを通して交流を深めた(平成24年10月)。また市内の私立高等学校が行う国際交流を目的とした行事にも同学科の留学生が招かれ、高校生と交流を深めた(平成24年11月)。

イ 地域の行事への参加や施設訪問

自治会などが主催する地域の夏祭りなどに日本語学科留学生の有志が参加。和太鼓や踊りなど日本の伝統文化を体験した(平成24年7月、同10月)。また、地域の特別養護老人ホームを訪ね舞踊などを披露した(平成25年1月)。

ウ 三鷹国際交流フェスティバルの開催中止と上級学校訪問受入れ中止

毎年、専門課程在籍生を中心に参加していた三鷹国際交流協会主催の「三鷹国際交流フェスティバル」は、悪天候のため中止となった。また、例年受入れを行っていた公立中学校が行う「上級学校訪問」は、新社屋建設工事のため平成24年度は中止した。

エ 開校50周年記念同窓会の開催

1963年にアジア・アフリカ語学院第1期本科生(現専門課程)が入学してから50年が経過したことを記念し、本校で同窓会が開催された。卒業生や教職員など約170名が参加した(平成24年4月)。

3 国際交流事業(人材交流活動)

(1) アジア・アフリカ世界と日本の人々を対象とした異文化体験の提供

中国・北京市国際交流センターからの依頼を受け、以下の日本研修の支援(企画・運営)を行った。

幼児教育に関する日本研修の支援

<研修参加者> 北京市幼児師範学校幹部教職員 計13名

<研修期間> 平成24年4月15日～同年5月5日

日本の小・中学校経営管理事務研修の支援

<研修参加者> 北京市教育委員会委員及び同委員会幹部 計5名

<研修期間> 平成24年7月4日～同年7月12日

(2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施
ならびにこれに係る職業紹介

平成 24 年度は実績なし。

4 国際協力事業

(1) 外国人技能実習生受入れ活動

平成 21 年 10 月に受入れた技能実習生（ベトナム人 1 名、職種：製本）に対する実習を継続して行った。実習の受入れ企業は三鷹市内の印刷会社。なお、本実習生は平成 24 年 9 月末に研修期を含め 3 年間の実習を修了してベトナムへ帰国した。

(2) 日本語教育普及活動

国外における日本語教育普及活動の一環として、日本語教育を行っている国外の教育機関にアジア・アフリカ語学院日本語学科の教員を派遣し、現地担当教員との交流、研修活動を行った。平成 24 年度の実施状況は以下の通り。

実施時期と派遣先：平成 24 年 12 月 中国・山東省の日本語教育センター
派遣教員：市川淳太（日本語学科非常勤講師）

その他の法人業務の状況

1 会員

前年度に比べて普通会員はわずかながら増加。賛助会員は平成 25 年度からの技能実習生受入れ事業に伴い前年度の 1 社から 5 社に増加した。平成 25 年 3 月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	40 名	
特別会員（法人、団体）	1 社	
賛助会員（法人、団体）	5 社	技能実習生受入れ企業が対象

2 財団新社屋建設及び三鷹市立図書館開設に係る業務

(1) 財団新社屋建設工事の進捗状況

既存埋設物の切り直し工事や天候の影響により、当初の工程からは若干遅れているが、外装内装工事において回復可能な範囲で進んでおり、竣工時期（平成 25 年 8 月下旬）は当初の計画通りの見込みである。

(2) 三鷹市立図書館開設に向けた準備

前年度に三鷹市立図書館との協働事業を新たに公益目的事業に加えた変更認定申請（平成 24 年 2 月）を内閣府に行ったが、これについて平成 24 年 8 月 1 日付けで認定された。これを受けて、当法人と三鷹市及び三鷹市教育委員会の 3 者で、平成 24 年 8 月 30 日に「三鷹市立南部図書館（仮称）の開設及び運営に関するパートナーシップ協定」を締結し、それに基づき具体的な準備作業を進めた。

3 業務執行体制の整備

新事業導入による業務執行体制の整備を行った。平成 24 年 6 月 23 日開催の第 3 回評議員会において古市宣評議員が理事に選任された（平成 24 年 7 月 1 日就任）。この後、同氏は平成 25 年 3 月 25 日開催の第 7 回理事会において執行理事に選任された。

以上

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

平成24年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上